

事業名：小中学生国内交流研修事業

生涯学習課 青少年・スポーツ振興係

政策	06 市民協働によるまちづくり								
施策	03 国内・国際交流の推進								
基本事業	03 異文化交流の推進								
開始年度	平成 5年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	非対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

国内研修交流訪問団

手段（事務事業の内容、やり方）

友好都市土佐市との相互交流を行う。

○訪問：10月中旬 ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学、事業集録

○受入：1月末 ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学、事業集録

・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、研修交流事業を円滑に行う団体に対し補助金を支出する

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

土佐市との教育交流の中から児童生徒の友好都市への認識を深めるとともに、様々な生活文化や風土にふれ、豊かな感性を育む。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	研修訪問団構成員数	人	13	14	13	13
対象指標2	土佐市からの研修訪問数	人	16	18	16	16
活動指標1	補助金額	千円	1,073	1,232	1,069	1,127
活動指標2						
成果指標1	交流イベント参加者数	人	2,049	2,251	3,347	3,111
成果指標2	訪問した学校の生徒数	人	719	411	1,141	946
事業費(A)		千円	1,164	1,410	1,328	1,386
正職員人件費(B)		千円	2,408	2,405	2,344	2,347
総事業費(A+B)		千円	3,572	3,815	3,672	3,733

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	【訪問】 事前研修会の開催 実地研修（10月15日～18日 ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学） 【受入】 実地研修（1月21日～24日 ホームステイ、体験入学、体験学習、施設見学） ・事業集録の作成 ・活動団体等の事業に対し補助金を支出	引率教諭、同行職員旅費 261千円 交流訪問団への補助金 1,069千円

事業を取り巻く環境変化	
事業開始背景	
事業を取り巻く環境変化	
小中学生国内交流研修事業は、友好都市「土佐市」教育委員会と江別市教育委員会の共催により、平成25年度で21回目を迎えた。この事業は小中学生を対象とした相互交流訪問の形式による交流、交歓事業で平成25年度までに379名の小中学生等が訪問し431名の受入を行っている。	

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 江別市と土佐市の小中学生が相互に訪問しホームステイしながら、学校への体験入学や、それぞれ特色のある体験学習を行い、郷土愛を育み友情を深めるための妥当な事業である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 市内小中学校では浸透した事業となっており、異文化交流の推進に貢献している。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 ・ 相互交流・参加児童数は維持されている。 ・ 体験学習として異文化を相互に十分に学んでいるが、派遣、受け入れ学校の割り振りで3年～4年に1回程度となっており、中学校においては、相互交流を経験せずに卒業する生徒がいる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 相互に訪問団の受入に際し、様々な体験学習等を準備し受け入れているため成果は十分にある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありませんか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 引率教師数を平成14年度から削減しており、旅行期間を安全に過ごさせるための体制維持には限界にある。 派遣人数もH17より減らしているため、3年から4年に1回の割り当てのため、経験教諭や生徒がいなくなることにより交流意識が希薄化してきている。